

令和元年度 第2回 横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会 会議録

1 日 時 令和2年3月23日（火） 10時00分～11時40分

2 場 所 横浜市文化観光局会議室

3 出席者 丸山 宏 委員長、伊藤 裕夫 委員、田中 操 委員、箕口 一美 委員

4 欠席者 石田 麻子 委員

5 傍聴者 無し

6 議事内容

<p>議題</p>	<p>1 定足数の確認 2 委員会の公開・非公開について 3 議題1：横浜みなとみらいホール第3期指定管理者選定時期及びスケジュールについて 4 議題2：指定管理者選定関係資料 5 その他</p>
<p>議事・委員意見等</p>	<p>1 定足数の確認 「横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会運営要綱」第7条第3項に基づき、委員数5名のうち4名の出席により定足数を満たしており、会議の成立を確認した。</p> <p>2 委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、議題1、2の審議については非公開とした。</p> <p>3 議題1：横浜みなとみらいホール第3期指定管理者選定時期及びスケジュールについて 事務局から選定スケジュールと選定方法（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団を非公募（単独指名）により選定）について説明を行い、了承された。</p> <p>4 議題2：指定管理者選定関係資料について 事務局から選定関係資料（選定要項、業務の基準、提案課題、評価規準項目等）の説明を行い、委員の意見交換を行った。管理業務等に関する資料については、事務局に一任することを確認した。</p> <p>【主な委員意見及び事務局回答】</p> <p>(1) 選定要項について 賃金スライドは、直接雇用対象のものであり、間接雇用は対象ではない点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の指定期間が5年ということもあり、次期指定期間期間への改善点を考えていくということではないか。 ・人材を途中で確保することは難しく、文化芸術分野は厳しい労働条件で働いている若者が多く、離れていってしまう。良い人材を集められるように、この5年間でしっかり考えてほしい。

(2) 業務の基準について

【使命1について】

- ・日本のホール系のアーカイブはあまり良くない。「使命」で「記録」について記載があるが「指標」にはない。記録化と一言と言っても、美術館では、学芸員が調査研究を紀要としてまとめている。一番簡単な方法はチラシをとっておくことで、この2つの間の方法がほしい。
→アウトリーチも含めて紙、電子でも残してほしい。「定性指標」として「データの蓄積と公開」といった内容を入れることとする。
- ・新型コロナウイルスの影響で、他のホールでライブ配信が行われた。クラシックコンサートで20万人の視聴というすごいことのように感じるが、IT業界的には大した数字ではない部分もある。
- ・これまで「裾野を広げる」といった時に、ハコに人が入ることを前提としていたが、今回の感染症の影響で、様々なネット配信、無料配信が行われ、また、ベルリンフィルのデジタルコンサートホールのような取組もある中、21世紀のコンサートホールが生き延びる方法なのではないか、とも考えられる。
- ・例えば、ピアニストの手元のみを映すカメラや正面からのカメラ、オーケストラのパート毎の映像など、小さいカメラでお客様にも見えない形で設置できる。これらは次世代へ残していくために記録していくという点にも関係する。みなとみらいシリーズとしてコンテンツができる。オーディオコメンタリーも入れたり、パブリックビューイングにもできるだろう。
- ・リニューアルオープン公演という点でも、横浜みなとみらいホールだけでなく、市内のあちこちで見られる、というのも面白いかもしれない。リニューアルオープン時にハコに来てもらうことだけでない。
- ・今回の選定は、非公募なので競争ではない。委員会の発言を指定管理者にアドバイスとして伝え、良い提案を出してほしいと思う。
- ・コンプレーションのように、これまでのアーカイブから拾えるとよい。例えば、アニメで使われているクラシックなども若い世代が触れるきっかけになる。「このようなことができる」というのが「横浜みなとみらいホールを使ってください」という貸館のプロモーションにもなる。
- ・「定点観測者の設置」はできるか。価値判断をできる人にレポートをあげさせるようなモニターを作る。モニター料を支払うことで若い書き手を育てることができ、お金になる仕事を作ることができる。今、若手がコンサートを見に行けなくなっている。横浜みなとみらいホールの公演を無料で見られて、お金がもらえる。東京圏内であれば、講座で育てなくても、レビューを書ける人、手を挙げる人はいるはずだ。
- ・評論とか批評というのは、別のクライテリア（判断基準）がある世界なので評論家とか批評という言葉は使わない方がよい。モニター、オーラルヒストリー的な感覚。アンケートも大事だが、お客さん側で見てくれる人がよい。ただし締切は厳密にしたほうがよい。
- ・イギリスのパフォーミングアーツなどは、Bachtrack（バックトラック）を活用している。これはコンサートの紹介とモニターによるレビューがまとまっているサイト。モニターは48時間以内にレビューをあげなくてはならない。批評は英語で書くことが条件であり、フランス語、ドイツ語、スペイン語で、東京の公演を発信できる。

【使命4について】

- ・アウトリーチの指標は、学校だけでなく全てを含めてほしい。
→学校だけを記載したのは、横浜市として市の文化施設は全て学校にアウトリーチを行うというものがあるためだった。学校「等」という表現に修正する。

	<p>【使命6について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使命6の指標は、現在の案では、指標として意味があるだろうか。 ・SNS数は、休館中は増えないだろうし難しい。 「プレゼンス向上」はいったい何をイメージしているか。 →休館期間中でも、施設を忘れられないようにすることも意味している。 ・休館時は、休館中の事業にプラスして次の仕込みを行っている、通常期よりかえって忙しくなる。プレゼンスも大切だが、改修中のプランと、新しい5年間のプランをきちっとたてる、ということも必要なことである。 ・使命6は、「成果が確認できるような指標を提案しなさい」としたほうがよい。他の休館を行った施設に話を聞いたほうが良い。 →指標については、提案書のほうで、応募者が提案する指標を書ける欄がある。また、スタッフの研修についても文言を盛り込みたい。 <p>(3) 「提案課題様式集」及び「評価基準項目及び配点表」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非公募施設であるため、配点表の配分に強くこだわらなくてよいと思う。使命6は、改修期間中のスタッフ配置等、提案を受ける形になるのか。細かな点が、今の様式だとわかりにくい。 ・「休館をいかした」という形で提案をしてもらう。 →長期休館中の事業や取組、また、リニューアルオープンに向けた取組それぞれの指標を作る。リニューアルオープン時にどうなっているか。休館中の組織命令系統も書いてもらう方向で整理する。 <p>(4) 管理業務等に関する資料の取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見なし <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に、委員会は非公開となっているが、無競争の場合、このような議論の一部を公開したり、財団にも見せてあげたほうがよいのではないか。公開、非公開の厳密性よりもできるだけ詳しく伝えたい。 →詳細な議事録は公開しないが、今回の委員会の内容は、指定管理者と共有を行う。良い提案につなげてほしい。
<p>審議結果</p>	<p>選定要項、業務の基準、提案課題、評価基準項目についての各委員の意見を踏まえ、委員長と調整を行ったうえで確定する。確定した選定関係書類は、各委員に送付するとともに本市ウェブサイト上で公表を行う。 また、議事録については委員長確認後に確定のうえ、公表する。</p>